

昭和37年度 事業 報告

昭和36・37年度モガイ採苗予報調査

目 的

摘期採苗の指導により、稚苗自給の安定を計るために実施した。

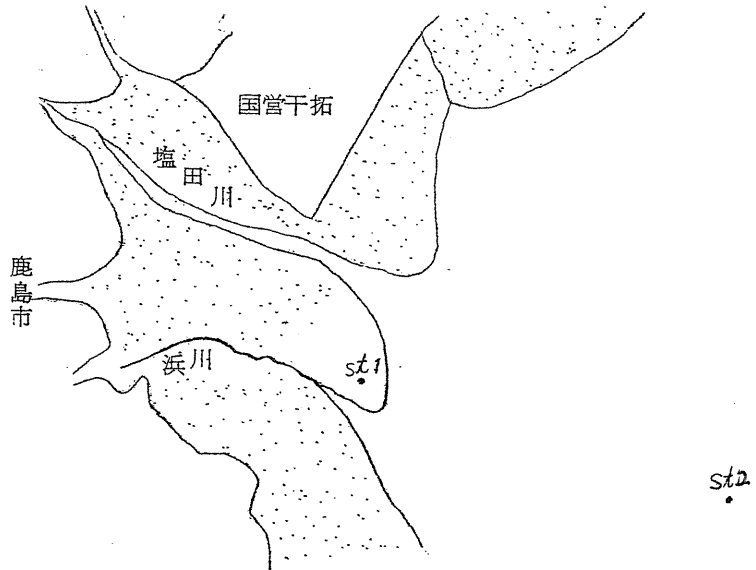
方 法

36・37年度の調査地点は図に示す。プランクトンネット垂直曳き（底層から表層）を行ないモガイ浮游幼生の出現状況および、表・2m・底層の水温・比重の測定を行なった。又St.1(地盤高0.4m)の地上から15~30cmの層に付着器(パーム1本の重さ8g)3本を設置し、新たな付着器と随時とりかえて、付着状況について調査した。

結 果

36・37年度の結果は、それぞれ第1~3・第4~6表に示した。

36年度、6月下旬に浮游仔貝がみられたが、昨年よりやや早く出現した。この時期に



観 測 地 点

第 1 表 36 年度浮游仔貝出現数

St. 月日	6月19日	26日	7月5日	15日	20日	25日
1	0	25	5	5	0	0
2	0	2	0	76	30	欠

第 2 表 36 年度採苗時期別付着数

採苗期間 付着器の番号	6月12日 ~ 19日	19日~ 26日	26日~ 7月5日	5日~ 15日	15日~ 20日	20日~ 25日	25日~ 8月8日
A	1	3	2	17	86	5	13
B	0	5	欠	12	39	4	9
C	0	15	20	35	81	7	17

1日平均1ヶ強の付着がみられた。7月上旬は浮游仔貝・付着稚貝はわずかであつた。中旬に付着稚貝の小さな山があつた。下旬以降付着稚貝は減少した。本年は比重高く、採苗成績は不良であつた。

37年度、7月上旬の豪雨で有明海沿岸部は淡水化した。下旬には平年よりやや高い比重となつた。7月末から8月始めの大潮時に採苗指導を行なつたが大量の付着がみられた。

(岩永一也・三井所正英)

第 3 表 36 年度観測結果

月日	St. 層別	1		2	
		水 温	比 重	水 温	比 重
6月19日	表	24.8	21.39	25.6	22.36
	2m	23.8	22.16	23.5	22.56
	底	23.8	22.36	21.9	24.16
26日	表	25.2	22.71	25.1	23.80
	2m	25.2	22.94	24.6	23.90
	底	24.8	23.34	22.9	24.20
7月5日	表	26.4	20.77	26.6	22.26
	2m	26.5	24.25	26.3	22.93
	底	26.4	24.65	25.8	24.25
15日	表	30.2	15.28	30.0	17.35
	2m	28.8	18.16	28.8	18.98
	底	28.1	19.11	25.8	23.51
20日	表	30.0	22.41	31.9	—
	2m	—	—	—	—
	底	—	—	—	—
25日	表	28.8	—	—	—
	2m	28.8	—	—	—
	底	28.8	—	—	—
27日	表	28.3	22.89	28.7	21.89
	2m	28.2	22.99	28.6	22.32
	底	28.3	23.21	28.2	22.62

第 4 表 37 年度浮游貝出現數

St \ 月日	6月15日	21 日	7月 3日	20 日	23 日	27 日
1	0	欠	0	0	1	0
2	欠	0	欠	0	2	0

第 5 表 37 年度採苗時期別

採苗期間 付着器番号	6月15日 ~ 21日	21日 ~ 7月3日	3日 ~ 17日	23日 ~ 27日	27日 ~ 8月6日	6日 ~ 10日
A	0	0	流 失	1	5	11
B	0	0	〃	0	14	48
C	0	0	〃	3	10	46

第 6 表 37 年度観測結果

月日	St 層別	1		2	
		水 温	比 重	水 温	比 重
6月15日	表	21.4	9.16		
	2 m	21.2	16.68	欠	欠
	底	20.9	16.88		
21日	表	23.6	20.96	23.4	20.84
	2 m	22.8	21.01	22.1	21.82
	底	22.8	20.84	21.2	23.72
7月 3日	表	23.6	5.18		
	2 m	23.7	12.48	欠	欠
	底	23.8	16.54		
23日	表	31.0	6.90	31.1	6.68
	2 m	27.6	9.51	27.3	9.79
	底	25.6	14.13	23.3	20.19
27日	表	26.8	18.15	26.2	16.85
	2 m	24.4	19.69	25.9	17.55
	底	23.6	19.89	23.1	19.49
8月 6日	表	30.3	15.64		
	2 m	29.4	15.61	欠	欠
	底	28.3	17.14		

がさみのゾエア幼生から稚がにまでの飼育

前年度の試験結果により、摂餌量の多かつた条件下で、ゾエア幼生から稚がにまでの飼育を行なったので、結果を報告する。なお、水害、不漁のため、1回のふ化飼育試験しか行なえなかつた。

材 料 と 方 法

7月1日、ふ化直後のゾエア幼生約1,000尾をポリエチレン製トロ箱(55×33×8cm)2個、ガラス製バット(直径30cm、深さ14cm)2個にそれぞれ250尾前後収容し、夜間には、照明して、朝および夕方、ふ化直後のブライン・シユリンプを給餌した。残餌はビニール管でサイフォン式で取り除き、毎日 $\frac{1}{2}$ 程度換水した。メガローパになつたものは、砂をしきつめた腰高シャーレ(直径15cm、高さ7cm)に移し、魚貝肉・内臓の細片を与えた。飼育海水の比重は21.00前後である。

結 果

ふ化後、3日目から脱皮が始まり、8~12日目の間に各容器で大量の斃死がみられたが、早い個体は12日目にメガローパになつた。7月17日、19日にそれぞれ1尾稚がにとなつた。8月13日、27日斃死までそれぞれ4回、7回脱皮し、甲巾3.9cmに達した。

(三井所正英)

ノリ養殖技術改良普及事業

1 ノリ養殖状況

37年度の養殖規模は、網ひび約92,000枚で、去年より約12,600枚の増加である。地区別にみると、筑後川地区59.5%(36年度57.2%)、六角川地区10.5%(9.0%)、塩田川

地区 2 8.7 % (3 2.5 %)、太良地区 1.3 % (1.3 %)で、筑後川地区がやや増加している。

作柄は、過去9年間の網ひび1枚当り平均収量904枚に対して、約1,740枚と推定されこれまでの最高を示した。この原因としては、10月上旬の採苗の成績がよく、年内にかなりの生産をあげたこと、3月にはいつでも水温が低く遅くまで摘採することができ、漁期が長かつたことなどによるものと思われる。また技術の向上により、ひびの管理や腐れに対する処置が適切に行なわれるようになったことも一因と考えられる。

表 ノリ生産状況

年度	組合	戸数	面積	女竹	割竹 浮ひび	やし網	化繊網	生産高	平均 収量	平均 単価
		戸	万坪	千本	枚	枚	千枚	千枚	枚	円
28	15	81	35	202	640	1,985	0	1,544	310	5.6
29	17	150	35	441	823	1,251	0	5,118	740	3.5
30	12	137	32	178	821	1,200	0	6,622	1,450	4.7
31	16	314	50	249	2,332	5,498	153	15,026	1,280	3.3
32	18	291	80	192	1,580	11,100	740	9,543	530	7.0
33	18	435	150	159	1,731	13,230	5,331	7,000	370	6.5
34	18	460	200	50	1,955	11,000	10,290	38,000	1,540	8.5
35	22	967	380	0	2,395	1,400	57,000	65,000	950	5.9
36	23	1,158	595	0	472	970	77,727	77,200	965	5.3
37	23	1,139	704	0	216	460	90,960	160,000	1,740	7.8

2 養殖技術指導状況

(1) 糸状体培養指導

ノリ養殖業者のほとんどが糸状体の自家培養を実施した。(約25,000箱、約100万個)

これについて、毎月1～2回、定期的に、異常があつた場合には随時巡回して技術指導を行なつた。共同培養は、嘉瀬(24,000ケ)、浜(40,000ケ)、七浦(40,000ケ)で行なわれた。培養成績は大体において良好で、管理不良や病害などによる使用不能のものは、約10%であつた。病害のおもなものは黄斑病である。

(2) 野外人工採苗指導

県内養殖ひびの約85%が野外人工採苗によつて種付けされた。この技術指導については、講習会の開催、採苗現地指導、芽付きの検鏡を行なつた。採苗成績は10月上旬のものは、網ひび設置後24℃～25℃の水温が続いて最初芽付きが少なかつたが、その後の管理（主として網の汚れ落とし）によつて二次芽の増加が著しく、早いものでは11月中旬から摘採された。10月中旬に採苗したものは、芽付き、成育共に良好で、12月上旬から摘採された。

(3) 室内人工採苗指導

県内養殖ひびの約15%が室内人工採苗によつて種付けされた。（西与賀漁協400枚、鹿島漁協2,000枚、鹿島町漁協3,000枚、浜町漁協2,000枚、七浦漁協2,000枚）。これについては、糸状体からの孢子放出促進、採苗水槽の水質、芽付きの検鏡等の指導を行なつた。採苗成績は西与賀漁協以外は良好であつたが、初年度であつたため慎重にし過ぎて芽付きが濃過ぎるきらいがあつた。西与賀漁協で、当初芽付きが思わしくなかつたのは、①工事完成直後の採苗タンクを使用した。採水船の水艙に問題があつた（水艙の汚れ?）。②採水場所が岸寄りの河口で、採苗用としては不適であつたことなどが考えられる。

(4) 養殖管理指導

特定組合については、現地調査、講習会を実施し、全般的な技術指導は、巡回指導、ノリ養殖情報の発行によつて行なつた。特に「赤くされ」対策に努力し、相当の効果があつたものと考えられる。

3 今年の「赤くされ」の状況およびその対策

11月下旬から「赤くされ」菌が見られたが、まん延せず、12月中旬の小潮以後、急激に進行した。最も早く発見されたところは、「うるま」、「にしのみつ」で、共に沖合部の密殖、低吊りのひびである。対策としては、第一に摘採して後、高吊りするようにし、腐れた葉体を除去するように指導した。この結果、高吊り操作および腐れ葉体の除去を行なつたひびは、後芽の生育が良好でその後、ひび1枚から1,000枚以上の生産をあげた。一方、ひびの管理を怠つたものはほとんど摘採できずに終つた。

（山 口 正 市 ・ 岩 永 一 也）

海 況 観 測

月 日	層別	1		2	
		水 温	比 重	水 温	比 重
37年 4月26日	表	16.6 °C	23.34	16.2 °C	23.74
	底	16.5	23.40	16.0	23.79
5.22	表	20.1	21.55	20.0	22.38
	底	19.7	21.83	18.8	22.88
6.21	表	23.6	21.16	23.4	20.82
	底	22.8	21.01	21.2	22.78
7.27	表	26.8	18.50	26.2	17.22
	底	23.6	20.06	23.1	19.55
8.20	表	28.5	17.74	28.1	18.76
	底	27.2	20.30	25.7	20.82
9.18	表	27.2	17.45	26.4	19.96
	底	26.9	18.01	26.4	20.12
10.2	表	24.6	21.72	24.9	22.50
11.9	表	17.4	21.84	18.0	21.10
11.27	表	13.4	20.26	14.8	22.13
	底	13.3	20.27	14.8	22.16
12.26	表	10.4	22.00	12.2	22.16
38年 1.28	表	5.6	22.30	7.5	22.70
	底	5.5	22.26	7.4	22.56
2.27	表	6.4	22.31	7.4	21.59
3.20	表	12.8	18.31	12.4	17.31

観測地点は38ページの図参照